

ゴールデンウィーク期間中の救急医療体制

問電話番号センター ☎522・9999

各診療科目の受け付けは、診療終了時間の30分前まで(24時間診療の医療機関は除く)です。受診する科や症状(緊急度)によっては待ち時間が長くなることがあります。下記以外の医療機関でも内科・小児科・外科・耳鼻咽喉科などの診療を行っている場合があります。詳細は、電話番号センターへ問を。

救急医療機関		診療科目	4月27日 (土)	4月28日 (日)	4月29日 (祝)	4月30日 (休)	5月1日 (祝)	5月2日 (休)	5月3日 (祝)	5月4日 (祝)	5月5日 (祝)	5月6日 (休)
夜間・休日急患センター 小倉北区馬借一丁目7-1 【総合保健福祉センター1階】 ☎522・9999 ※眼科は他の医療機関を紹介する場合があります。事前に問を		内科、小児科、 外科・整形外科	19時30分 ～ 23時30分	9～23時30分								
		眼科※										
		耳鼻咽喉科		9～17時								
		歯科										
第2夜間・休日急患センター 八幡西区黒崎三丁目15-3 【コムシティ地下1階】 ☎641・3119		内科、外科、 整形外科	19時30分 ～ 23時30分	9～23時30分								
休日 急患 診療所	【門司】 門司区羽山一丁目1-24 ☎381・9699	内科、小児科		9～17時								
	【若松】 若松区藤ノ木二丁目1-29 ☎771・9989											
小児救急・小児総合医療センター 八幡東区尾倉二丁目6-2 【市立八幡病院内】 ☎662・1759		小児科	24時間対応									
北九州総合病院 小倉北区東城野町1-1 ☎921・0560			9時～翌日7時			開院日 救急:17時 ～翌日7時	9時～ 翌日7時		開院日 救急:17時 ～翌日7時	9時～翌日7時		
			重症の場合は24時間対応									
国立病院機構小倉医療センター 小倉南区春ヶ丘10-1 ☎921・8881			24時間対応（受診前に問を）									
地域医療機能推進機構 九州病院 八幡西区岸の浦一丁目8-1 ☎641・5111			9～24時（0～9時は事前に問を）									

- ゴールデンウィーク中に通常の診療を行っている医療機関がありますので、かかりつけ医の診療日時などを事前に確認しておきましょう。
- 市は、医師会等の団体や産業医科大学病院、その他救急医療機関などの協力を得て、救急医療体制を運営しています。不要不急の受診を避けるなどご協力をお願いします。
- 子どもの急なけが・病気については、福岡県小児救急医療電話相談(☎#8000)にご相談ください。受付時間は、19時(土曜日は12時、日曜日と祝・休日は7時)～翌日7時。19～23時は☎662・6700も可。
- 救急車を呼ぶべきか、病院を受診すべきか迷った場合は、福岡県救急電話相談・医療機関案内(☎#7119か☎(092)471・0099)をご利用ください(24時間対応)。

●ゴールデンウィーク期間中の市立病院の診療

医療センター(小倉北区馬借二丁目、☎541・1831)、八幡病院(八幡東区尾倉二丁目、☎662・6565)、門司病院(門司区南本町、☎381・3581)は4月27日(土)～29日(祝)、5月1日(祝)、5月3日(祝)～6日(休)は休院します。4月30日(休)、5月2日(休)は通常どおり開院し、診療します。問病院機構☎582・3051へ。

麻しん(はしか)を予防しましょう

全国的に、麻しん(はしか)の患者が増えており、特に東南アジアなどの麻しん流行地域から、日本国内に持ち込まれることによる感染・輸入感染が広がっています。平成30年の麻しん患者は、市内では0人でしたが、福岡県内では20人の患者が報告されました。

医療機関へは、①流行地域での滞在歴、②麻しん含有ワクチンの接種歴(麻しん単独ワクチン、MR(麻しん風しん混合)ワクチン等)、③麻しん罹患歴(過去にかかったことがあるかどうか)などを伝えましょう。

麻しんを予防
するためには？

手洗い、マスクだけでは予防できません。麻しんの予防接種が最も有効な予防法です。



●今まで麻しんにかかったことがない

●麻しんの予防接種歴が不明

●麻しんの予防接種を1回しか受けていない

※これらに該当する人は麻しんの予防接種を検討してください。

定期予防接種の対象者は無料で受けることができます

【対象者】1歳児と小学校就学前の1年間(年長児)。

※対象者以外は、自費負担での接種となります。

問保健福祉局保健衛生課☎5002・2430へ。

医療機関で受診を

東南アジア等、麻しん流行地域に行ったことがある人で、発熱、風邪症状、目の充血、発疹などの麻しんを疑う症状がある場合は、医療機関へ連絡の上、受診してください。また、受診の際は、自家用車などを使用し、できるだけ公共交通機関の利用を避けましょう。



- 麻しんは、感染力が非常に強く、空気、飛沫(ひまつ)くしゃみなどのしぶき、接触によって感染します。
- 免疫の不十分な人が感染すると、ほぼ100%発症します。
- 症状は、高熱や全身の発疹、せき、鼻水、目の充血などです。
- 肺炎、中耳炎、脳炎などの合併症を伴う場合があり、死亡例もあります。
- 効果的な治療薬はないため、症状を抑える対症療法での治療が中心です。

麻しんってどんな病気？